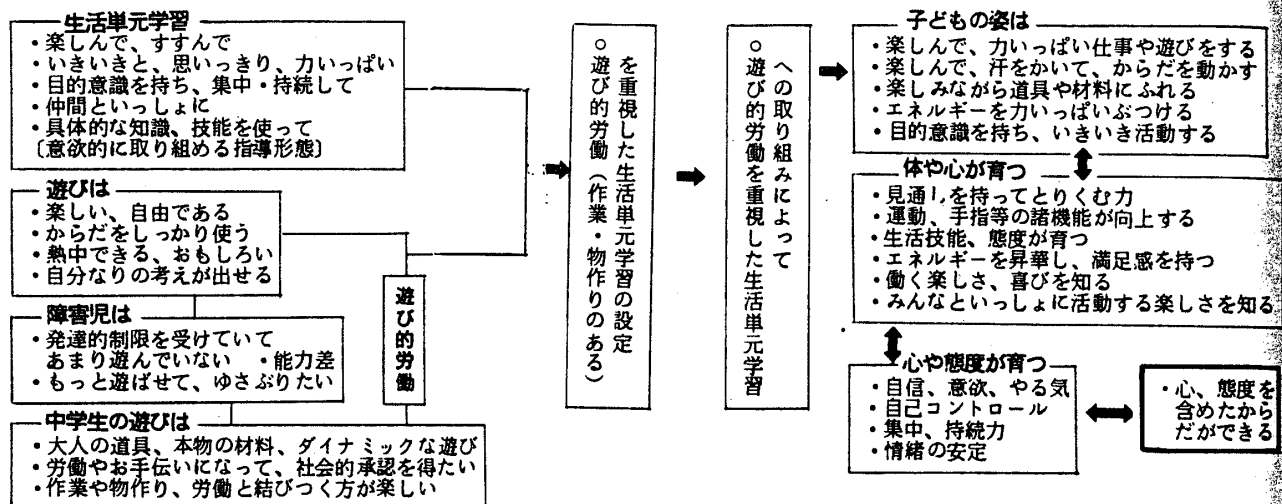


〔4〕生活単元学習による実践

(1) 遊び的労働を重視した生活単元学習

生活単元学習は、具体的な活動を通して、意欲的に、やる気を持って取り組むことをめざした指導形態であり、からだづくりに対しても「生活意欲を育てる」「鍛えたからだを具体的場面で総合的に生かし使いながら更に育てる」場になる。

労働とは肉体的・精神的両面を含めた仕事である。しかし、「遊び的労働」とは、労働本来の持つ厳しさよりも柔軟に、答えの限定されない、試行錯誤できる、許容される、できばえにかかわらず使える等の意味を含んでいる。そこに楽しさ、満足感、情緒の安定、生活意欲が得られる。小学部の遊び、高等部の職業（将来の社会生活に必要な知識・技能・態度を身につける）との間にある中学部の生徒に、遊び的要素を含んだ作業活動に、意欲や態度にねらいを置きながら取り組ませ、作業の基礎能力を高めたり啓発経験の意図を持ってとり入れた指導形態である。次図11はそれ等の関連を示している。



〔図11〕作業活動を大きく位置づけた生活単元学習

① 本年度、特に意図した授業づくりの工夫

本年度の授業づくりの更なる工夫の視点とも関わって、昨年度の実践を補充する形で試みた実践である。

a 題材の更なる模索—題材選定のより確かな視点

- ・生徒の思いからスタートした、スタートしやすい題材。
- ・その子なりの完成品でも充分活用できる題材。
- ・少し抵抗はあるがじっくり取り組み、少し頑張れば、新しい技能が習得できたり、経験が広がったりする題材。

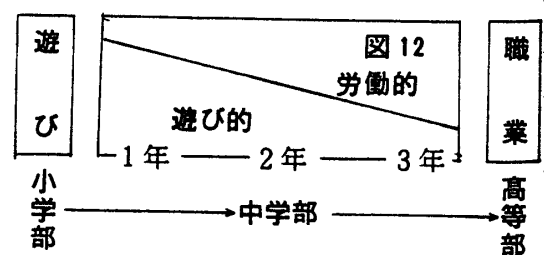
- ・図12に示すように、学期や学年進行につれて、作業学習のねらいが加味できる題材。

b 単元間、題材間に類似内容、類似活動をくり返し、積み上げや発展を図る。

発達遅れた子の指導に、スモールステップの原則、



ようしがんばるぞ、エイエイオー！



反復練習の原則がある。単元内の題材の意図的な選定をすれば、この指導の原則を守りながら、学習内容を少しずつ発展させ、積み上げていく系統的な指導ができると考える。本年度はその点をより意識して、指導者も生徒も力の蓄積を確認していこうと考えた。次の図13は、平成2年4月から平成3年9月までに中学部2年生の生活単元学習に含まれた木工（糸のこ）の題材である。単元を追いながら技能や量にだんだん要求度が高まっていくと同時に平成2年度と3年度の同一単元を比べた時も難易度や要求度がスパイラルに高くなっていることが伺える。

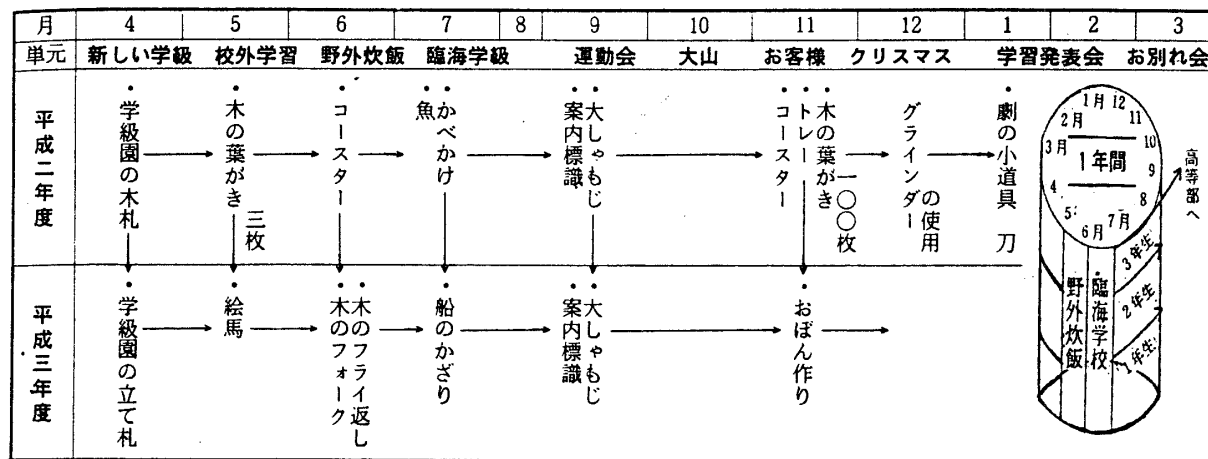


図13 生活単元学習での題材（木工・糸のこ）の積み上げ—2年—

c 個人内の系統性を読み取って力を積み上げていく。

題材による系統性や積み上げと同時に、一人ひとりの個人内の系統性（現在を見据え、次を期す）を読み取って個人に対応していける教師の構えを本年度は更に大切に、個人目標の積み上げを図った。次の表16は、中学部2年生のK男の入学以来の木工題材への取り組み（取り組みせ）の変容を示したものである。からだづくりを背景に、今できることを大事にしながら一步步次の課題に挑ませていく教師の眼と構えが、長い期間に変容となって表われて生きている。

木の葉書 (糸のこ)	・最初は見ているだけ。糸のこが恐ろしくて余り手を出したがらない。 ・興味があるのか、大きな音の嫌いなK男だが、友だちがするのを側で見ておれる。
椅子 (鋸・金槌)	・教師と一緒に鋸を扱う。力の入れ方が分からないが、嫌がらないで、押したり引いたりを繰り返す。1人でさせると鋸で材料を撫でているか叩いている。
壁掛け (糸のこ)	・教師が強引に手を添えさせる。はじめは抵抗があったがだんだん、少しだけなら押えることができます。壁掛け2枚仕上げる内にはほとんど恐わがらなくなる。
魚 (糸のこ)	・糸のこを使うことに興味を持ち始める。「糸のこ」と言うと、自分で機械に近づきます。 ・指示でスイッチを扱いだした。作業が終わってから、自分でスイッチを入れたりする。
案内標識 (鋸)	・少しだけ線を意識して切り始める。鋸が鋸跡から外れた時には、自分ではめ直して作業をする。鋸をひいている時間が長くなってくる。
トレイ (グライNDER)	・初めて使用させる。大きな音に対し恐怖心を持ったが、すぐ慣れる。 ・自分でスイッチを入れたり切ったりして、余暇時間も喜んでペーパーがけをする。
木の葉書 (グライNDER)	・分業制をとったため、専ら、グライNDERで専門に磨きをする。100枚磨く。 ・指示に従って、かかっている所にもあてられるようになる。
学級園の札 (鋸・金槌)	・鋸はかなりうまくなり、太い木（直径15cm）でも時間をかけて切り落せるようになる。 ・釘打ちも、自分で釘を立てて打ち始める。木工道具にどんどん興味が出てくる。

【表16】

d 1時間の授業づくりでの更なる工夫

本年度の授業づくりへの更なる工夫と関わりを持ちながら、生活単元学習での一時間一時間の授業にも昨年の取り組みに加え次の様な更なる工夫を試みた。

表17 学習過程のちがい

- 目的意識を持ち続けて本時を迎え、自分なりの思いや資料、材料の出せる「生徒の構えづくり」を重視した学習過程の工夫（表17）
- まる毎の活動をその子なりに、少ない援助でやりとげさせるための援助の仕方、教材教具の工夫。
- 課題にじっくり取り組ませる意欲や見通しの持たせ方の工夫

これ等具体例については各学年や個人の実践の中で述べたい。

③ 遊び的労働を重視した生活単元学習の概要

次に示す表18は、昨年11月～今年9月迄に実践した遊び的労働を重視した生活単元学習の概要、意欲的に取り組んだ題材、集団の大きさ等を一覧表にしたものである。一昨年から同じ単元であり、内容も生徒たちが過去の経験から思いついたものが多く、「紀要12集」の例と殆んど変わりはないが、生徒の思いを出発にしている点で大きな違いがある。

表18 遊び的労働を重視した生活単元学習 (◎印は本年度新しく導入したもの)

実践の概要		意欲的に取り組んだ題材と要因	集団の大きさ・種類		
お客様を迎えよう (11月) 48時間		<ul style="list-style-type: none"> ・うどん作り(3年) 調理の練習 ・おでん作り(2年) (作ったら食べられる) ・ふた汁作り(1年) 自分に合った仕事) ◎木の葉がき(1年) ・和紙の葉がき(3年) ◎シルクスクリーン印刷の葉がき(2年) (作業のくり返し、見通し 量産の喜び、使ってもらう目的) ◎屋台作り(1・2・3年) (大人の道具を使った、かなり大がかり) ◎傘おどりと太鼓(リズムカル) 	1年	2年	3年
			・導入	・環境整備	
学習発表会 (2月) 40時間		<ul style="list-style-type: none"> ・大道具作り(1・2・3年) (大きな材料、木工具を扱う、ペンキで描く、 ダイナミックさ、目的意識) ・劇練習(合同、パート) (目的意識、だん上手になる、 先生も一緒に出る喜び) ◎大道具のセッティング (力仕事、みんなの役に立つ) ◎即売会の準備 (作った物を売る喜び、店作り の楽しさ、表示の工夫) 	・アトラクション	・ごち	・ごち
			・導入	・全体練習	
			・発表	・片づけ	
			・小道具	・小道具	・衣裳
					

実践の概要		意欲的に取り組んだ題材と要因	集団の大きさ・種類		
野外炊飯 (六月) 38時間	<p>○校内の野外炊飯場で1年生を招待する炊飯学習、何もない松林にみんなが出かけての野外炊飯、教生の先生とお別れ炊飯と炊飯学習をくり返す。必要な道具もほとんど手作りの物だった。</p> <p>・道具の運搬等力仕事もがんばった。</p> 	<p>・ごはんのみそ汁(1年) 調理の練習(作ったら食べられる)</p> <p>◎お好み焼き(2年)</p> <p>◎カレーうどん(3年) (自分に合った仕事、責任を負う)</p> <p>◎1年生招待炊飯 (作ってあげる、教えてあげる)</p> <p>◎テント作り(1・2・3年) (大型キャンパスに絵を書く、大型のシートに造形活動をする、自分のテントを作る)</p> <p>◎教生の先生とお別れ炊飯 (みんなで作る、みんなで食べる、作った物を生かして使う、上手になっている)</p>	1年	2年	3年
			 <p>・招待炊飯 ・お別れ炊飯 ・当日</p> <p>・調理 ・調理 ・調理</p> <p>・道具 ・道具 ・道具</p>		
臨海学校 (七月) 40時間	<p>○臨海学校で何がしたいかを皆で話し合い、「船を浮かべる」「キャンプファイアー」「すいかわり」「すもう」を決める。その準備の学習として船づくりをしたり、まき作り、出し物練習等に取り組んだ。</p> <p>・特に今回は船作りに12時間を費し、「自分だけの船づくり」に燃えた。</p> <p>・当日は船を浮かべたり、泳いだり、夜のつどいをした。</p> 	<p>◎やりたいことを多数決で定める(自分の思い)</p> <p>◎船作り(大人の道具使用、好きな形で作る)</p> <p>・薪作り・薪をたばねる(ダイナミックな活動、目的意識、競争)</p> <p>◎砂場作りとすもう(砂遊びの自由さ、楽しさ、ダイナミックさ、遊び)</p> <p>・出し物練習</p> <p>・プログラム、日程表</p> <p>・テーブル表示等を作る</p> <p>・おみやげ作り</p> <p>・水泳の練習と班行動の練習</p>	<p>・オリエンテーション</p> <p>・船作り、船遊び</p> <p>・薪作り、薪を束ねる</p> <p>・砂場作り、すもう</p> <p>・当日 ・反省会</p>		
			<p>・宿泊 ・宿泊</p> <p>・夕食 (2・3年)</p> <p>・キャンプ ・夕食</p> <p>・ミニキャンプ</p> <p>・テーブルの表示</p> <p>・プログラムの表示</p> <p>・日程表</p> <p>・おみやげ</p>		
運動会 (九月 十月) 35時間	<p>・学校の運動会、東部地区心身障害児学級連合運動会に向けて、種目練習をしたり、必要な道具を準備したり、応援団を作って応援練習をした。</p> <p>・当日、演技だけでなく係活動にほとんどの生徒が活躍した。</p> 	<p>◎等賞リボン作り、数え。(目的意識、役に立つ喜び)</p> <p>・はちまき、ゼッケンの洗濯、アイロンかけ (目的意識、大人の道具使用、役に立つ喜び)</p> <p>◎競技用の道具作り・まき運び (目的意識、役に立つ喜び)</p> <p>◎役員記章づくり(役に立つ喜び、目的意識)</p> <p>◎歓迎アーチ、案内標識、ポスター作り</p> <p>・演技練習、応援練習(選手になる、競争、得点化、表彰等)</p> <p>・リレー(先生と競争、カップ)</p>	 <p>・種目練習 ・会場準備</p> <p>・応援練習 ・係の仕事</p> <p>・役員記章</p> <p>・道具づくり</p> <p>・ブラカード</p> <p>・リボン</p>		

以上、「遊びの労働を重視した生活単元学習」である5つの単元の概要を述べた。以下、その実践の具体例を「お客様を迎えよう」「野外炊飯」「臨海学校」の中から、本年度特に授業づくりで強調した観点と合わせながら述べる。

(2) 「お客様を迎えよう」での実践事例

—1人ひとりの持ち味を生かしながら、集団の美に結びつけていった「太鼓、傘おどり」の例—
 昨年11月の研究発表大会でたくさん来校者があり、中学部では「お客様を迎えよう」の単元を設定し「ごちそう」「おみやげ」「アトラクション」の3つからおもてなしをした。その中から、アトラクションで行なった「太鼓・傘おどり」について述べる。

① 太鼓と傘おどりについて

- a 生徒たちは、鳥取の「しゃんしゃん祭り」を見学したり、修学旅行先で太鼓の乱打を見たりして、自分たちもあんなにかっこよくやってみたいと日頃から憧れ、よく口にしていた。
- b 学校という小さな社会ではあるが、鳥取の伝統的文化を県外の人に披露することで、大人と同じ立場で、同じ文化でお客様をもてなすことのできた喜びや充実感を持つことができる。
- c 双方とも楽しんで力いっぱいからだを動かせると同時に、一人ひとりの力量に合った活動が集団の中で違和感なく溶け合え、個性や力量を生かした取り組みができる。

② 学習の概要

太鼓と傘踊りの練習を20分にセットして16回繰り返した。繰り返しの中に生徒たちは少しずつ変わっていきけるように、めやすを大きく3段階に分けて実践した。

学習のめやす	概要 ・ 授業づくりへの工夫
太鼓 ① リズムを覚えよう。 ② 力強く打とう。 ③ みんなで音を揃えよう。	① 全員が自由に床打ちを楽しんだ後、体育館用のいす→廃棄処分の破れ太鼓→樽→太鼓と、鳴り物を発展させながら、太鼓を打つことへの期待をふくらませ、リズムを覚えさせる。とにかくリズムに乗せる。 ② 「汗が出るように打ってみよう」等、両腕を頭の上から振りおろすことをことばかけの工夫で取り組ませた。良い動きをほめていく。 ③ 2つのグループに分け、かけ声で音を合わせる工夫をする。
傘おどり ① うちわを持って踊ろう。 ② 傘おどりを覚えよう。 ③ みんなが揃えて踊ろう。	① 運動会の発展として「附養きなんせ節」を踊り、踊りへの期待を持たせ、暖める。 ② 基本の動きをいくつかに分けて練習するが、のびのびと踊ることを大事にする。じっとしている生徒、歩きまわる生徒も、繰り返しの中で変わってくることを信じ、楽しいのりを大切にしていける。 ③ 形にならなくても傘をふって楽しむ生徒、腕をしっかり伸ばし大きく動かそうとする生徒など、曲によくのれるようになってきた。



③ 一人ひとりのでき方を生かす指導方針と変容の様子

一人ひとりの今のでき方を大事にしながら次を期する姿勢を大事に指導に取り組んだ結果、やや意図はあったものの、自ずと、指導の手だてから3つのグループができた。どのグループにも次の表19に示す様に、素晴らしい変容をみることができた。

表19 生徒の実態と変容の様子

グループ	実態・指導の方針・手だて	変容の姿
太鼓	A	<ul style="list-style-type: none"> 自由に打つのを好む。時々リズムを音声化して、身体全体をリズムにのせていく。 1つのことに3分と集中しないA子（現在高1）が、一人で、「きなんせ節」の曲をリズムカルに打ち続けだした。 K男は自分の打つ太鼓が分かり、さっと移動しだした。
	B	<ul style="list-style-type: none"> 同じ部分でつまづいたりする。時には徹底したくり返しをし、力を蓄える。 中々手の挙がらないS男が、太鼓を叩く時は自然に高く手を挙げて、力いっぱい打ち続けていた。 Y子は太鼓のふちを打つことでリズムを整えられだした。
	C	<ul style="list-style-type: none"> すぐ形はできる。先生ののりをまねながら情動的な高まりを更に形にしていく。 大きい音の嫌いなU子が、最初から最後までにこにこ笑顔を絶やさず、大きい声でかけ声をかけて参加できた。 M男（現在高1）は全身を太鼓にぶつけて打ち続けた。
傘おどり	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導されると混乱、踊るのを嫌がる。型にはめず、その子なりを大事にする。 傘を持たず、友だちの踊りを見るだけだったK子（現在高1）が、傘を持ち輪の中を歩き回るようになった。 K男が輪に沿って、部分的には動きを覚えて踊れだした。
	B	<ul style="list-style-type: none"> 効果が中々見えないが蓄積が必ず形に表われてくる。 自信がなく、踊りも遅れ勝ちのS男が、動きの正確さは欠くが、傘を大きく振りS男流の踊りを堂々と踊った。 Y子は当日は、ついに踊りの順番を違えずに踊れた。
	C	<ul style="list-style-type: none"> 効果が早く見える。少し抵抗のある課題にぶつけるとでき上った喜びが大きい。 U男、M男、H子（いずれも現在高1）は、先生よりも遙かにうまい傘さばきで堂々と踊り、拍手をもらった。 是非「しゃんしゃん祭り」に……と、保護者の声。

④ 実践を終えて

太鼓も傘おどりの技をねらえばねらうものは限りなくある。しかしそこをねらうと遊びどころか強制労働になる。楽しんで踊ったり打ったりする中に技が自ずと向上する取り組みを大切にしたい。

普段は中々じっとしておれなかったり、リズムのとれなかったりする生徒が楽しんでからだを動かしている姿、とても無理と思っていた技がくり返しでできだしていく姿を目の当りに見て、楽しさと繰り返しと可能性を信じ期待する心を持つことの

大切さを改めて感じた。「太鼓の演奏は不ぞろいの中に個が活かされていて味わいがあり、みんなの楽しそうな表情がすばらしかった」前中学部主事の講評に授業づくりの核心が述べられていた。



しゃんしゃん傘おどりを踊る

(3) 「野外炊飯」における実践

① 実体験を通して課題意識をもたせ、試行錯誤しながら解決に向かわせた1年生の実践

a 取り組みに対する基本的な考え

1年生の野外炊飯の学習は、まず賀露の松林へ実際に行ってみることから始まった。生徒達は、キャンプ等の経験は少しはあるというものの、炊飯施設の全くない場所での炊飯は初めてである。現地を知らない1年生にとって、実際に行き、何もないことを自分の目で見るが必要不可欠だと考えたからである。このような実体験を大切にすると同時に、学習の展開では、教師は教えるという立場よりも、「どうしよう、どうしたらいい?」という投げかけや追い込みをして、稚拙であっても生徒達の発想を大切に、課題を解決していく形態をとりながら学習を進めていった。

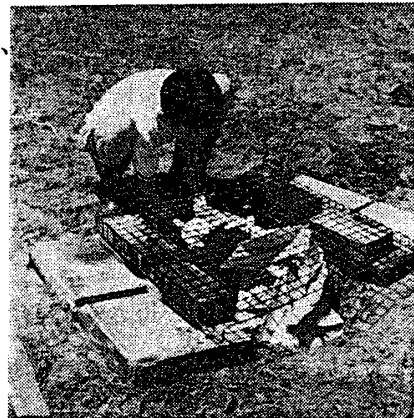
b 実践の概要

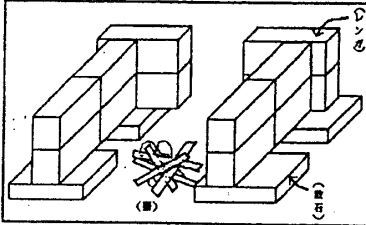

生徒たちが迷い失敗しながらも何とか自分たちで力を合わせて頑張って取り組んだ主な題材を拾い上げてみると、

題材名	ねらい	学習内容	生徒の様子
賀露の松林へ行く	・実体験をさせる。	・徒歩→バス→徒歩という手段で賀露の松林へ行き、自分の目で現地を見る。	・「本当に何もないなあ」「でも、水は公民館にある」「ホースで水をひく」「いろいろ持って来ないといけない」「作ろう」といった感想を次々に発表。 何もないところだということが実感できた。 単元の学習計画を考え、実践していく上での意欲づけができた。
お茶をわかしてみよう	・実態把握する。	・火を燃やす。 ・やかんで湯をわかす。	・マッチで火をつける。 ・自分でマッチを擦って火がつけたのは5名中2名。 ・木を燃やさないといけないという意識がうすく、紙ばかり燃やしているという状態で、せっかくついた火も途中で消えてしまった。 火を燃やす練習をしっかりとっておかないと、1年生は何も作れないし食べれないという実感ももてた。
かまどを作って火を燃やそう。	・失敗を次へ生かす。 ・上級生を見習わせる。	・レンガ・敷石でかまどを組む。 ・火を燃やす(紙→細い薪→太い薪) ・やかんで湯をわかす。 ・麦茶を作る。	・教師の「どうしたらいい?」「次はどうする?」といった投げかけに、全員が喰いついて必死で考えた。 ・ああでもない、こうでもないと言い合いながら、殆んど自分達の力でかまどを組んだ。 前回の失敗を生かして火が燃やされた。お湯もしゅんしゅんとわき、上級生にも焼きうどんのお返しとして麦茶を飲んでもらった。
飯ごうの御飯をたこう	・基本に忠実に ・まろごと参加をさせる。	・一人が一つの飯ごうを持つ。 ・ <u>米を量る</u> → <u>米をとぐ</u> → <u>水を入れる</u> → <u>火にかける</u> → <u>炊く</u> の過程を全員が一回は必ず行う。 ・炊けた御飯でおにぎりを握る。	・自分で自分の分を炊くので張り切り、一つ一つの過程を丁寧にこなした。  まろごと参加をすることで、御飯の炊き方が理解された。
交歓炊飯(やきめし作り)をしよう	・総まとめをする。	・分担形式で取り組んだ。 米とぎ→野菜を切る(女子) かまど作り(男子) テーブル設置 火の番 炊める	・自分の得意な分野を選んで担当していた。 かまど作りも5回目を数え、組み立て方が速くなり5名中4名は火が燃やせるという成果が見られた。

c 一時間の展開のようす ーかまどを作って火を燃やそうー

前時、お茶をわかそうとして失敗した苦い経験、招待炊飯（2、3年生が1年生を招いて焼うどんを作って食べさせてくれた）で上級生の上手な炊飯ぶりを目の当りにしたことは、本時の意欲づけ、ヒントとなった。生徒達に「どうする？」と投げかけ、教師は1人の考えを良い考えだと思ってもすぐには肯定しないで、皆で思った通りを失敗覚悟でやらせる、ケアーをしっかりする方法で、じっくり取り組んだ授業例である。



活 動	手立て	生 徒 の 様 子	
		赤チーム (M男・Y子・M子)	青チーム (K男・U男)
レンガ 敷石で かまど を組む	<ul style="list-style-type: none"> ・競争意識 ・チームの協力 ・自の力で ・「どうする、どうする」と追い込む ・アドバイスは必要最小限に ・レンガ運びを一緒に手伝う 	<ul style="list-style-type: none"> ・M男が積極的にレンガ運びをし、Y子とM子も協力して運んだ。 ・M男とY子が2人で「違う」「こうだよ」と言いつつ組み立てたが、網をのせたとんじががらとくずれてしまった。 ・再び組み立てに挑戦し、かなり頑丈なかまどとなった。できた時は皆で大喜びした。 ・普段友達に指示ばかりしていて、自分は行動に移そうとしないY子が、力一杯体を動かし、レンガを組み直していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は2人でレンガ運びに取りかかったが、U男が組み立てにまわり、K男が専らレンガ運びを担当することになった。 ・前日、上級生のかまどの作り方を記憶していたU男が「Sくん（3年生）がこういうふうにしていた」と思い出しながら組んだ。 ・K男はレンガを支えて手伝った。
			
火を燃やす	<ul style="list-style-type: none"> ・マッチは一人が一回は必ずする。 ・紙→木の燃やし方を指示。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、マッチをすって火をつけることでつまずく。何度やってもマッチがすれなくて、なかなか火がつかなかった。 ・ようやくY子がすった火が紙に燃えついたが木に燃えうつらず、再びやり直した。 ・燃えやすそうな細い薪を選んで火をつけ直し、何度めかでようやく火が燃えあがった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・K男が新聞紙を何枚も重ねたままつまんでいたので、マッチの火がなかなか燃えつかなかった。 ・U男が「1枚ずつにしないといけない」と気づき、1枚ずつはがして丸めて入れようやく火が燃えついた。
湯をわかす	<ul style="list-style-type: none"> ・よく燃える方法を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんどん薪をくべていくので燃えつきが悪く、火の勢いが弱い。 ・少し待つことで途中から火の勢いもよくなり遅ればせながら湯がわいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・細い薪ばかりくべるので、よく燃えるが、長続きしない。 ・K男が時々薪の向きを変えたり、下の方に木をつっこんで空気を入れていた。

d 実践を終えて

「自分たちでしなさい、先生は手伝わないよ」といった投げかけが生徒たちの意識を高め、からだを力一杯使って試行錯誤していく姿を生み出したと思われる。マッチで火をつけるのさえ何十分もかかっていた1年生も殆んどが自分で火が燃やせるようになり、かまどの組み立ても速くなってたくましさを感じられるようになった。時間的余裕があれば、どの題材もこのような方法で繰り返し練習して、生きた力にしていけたらと思った。

② どの子もその子なりに、1人でお好み焼きが作れることをめざした2年生の実践

a 取り組みに対する基本的な考え

2年生は1年生の時の野外炊飯で、材料を分担し、カレーライス作りを経験している。これはこれで、全員が頑張らないとカレーができないという指導のメリットがあるが、すべてを一人で作る機会などはほとんどなく、お母さんのお手伝いの段階で終わっている。「もっと簡単で、生徒たちが、全く1人でやりきれる題材」と考えてこの題材を設定した。



お好み焼きは、

- ・能力差があってもその子なりのもので完成品になる。
- ・切る、練る、流す等、遊び感覚で取り組める。
- ・皮をむく、切る、混ぜる、焼く等の色々な技能を繰り返すことができる。
- ・材料を変えることで、色々な味が楽しめる。

等の特徴を持っている。また、自分が頑張らないと自分の分が食べられないという一貫した指導方針で単元を展開した。

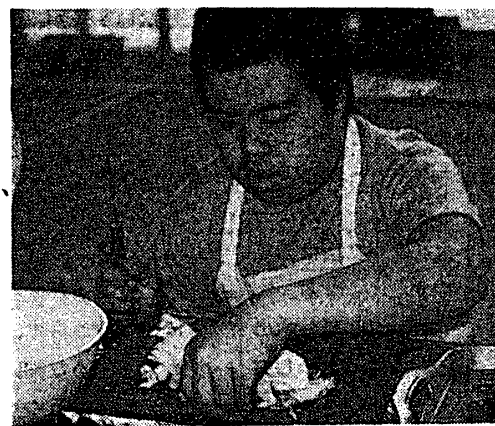
b 実践の概要

まず、生徒たちに興味を持たせるため、導入として単元の前にある学部遠足で教育実習生に実際に目の前でお好み焼きを作ってもらい、少しだけ食べさせてもらった。次に、学習を

買物学習 → **調理活動** → **食事** → **片付け**

という流れでパターン化し、5回繰り返した。


但し、全てを個別にするのではなく、調理の準備、片付けなどクラスの中で共同・分担する活動も取り入れた。この実践を述べる。



c 展開の様子

A 初回の取り組み

学習形態	手 順	K 男	Y 子	M 子
分担	買物	先生と一緒に竹輪、肉を買い、お金を払う。しかし、釣銭をもらわなかった。	キャベツ、海老を声かけの援助を受けて買った。	一人で粉とソースの置いてある場所をさっさと見つけて買った。

個別	調	切 る	 海老の皮むきができずかなり長い時間、海老を持ったままじっとして、他の材料を切るのが遅れた。	 材料を小さく細切れに切っていった。	 最初は大ざっぱに不揃いに切り、指示されて切り直しをした。
		理 混ぜる	 時々材料をこぼしたが、突くようにして、自分一人で混ぜた。	 M子の真似をしながら混ぜた。	 手早く混ぜた。
	理	焼 く	材料を高い位置から振り落とすように鉄板の上に乗せた。裏返しはうまくできなかった。	材料の適量が分からないため、多く乗せすぎ、裏返す段階で形を崩してしまった。	教師のやり方を真似、裏返しまで、一人で何とかできた。
		分 担	片付け	教師と一緒に火の片付けをした。	まな板・ボール類を担当し洗剤をつけて洗ったが、雑であった。
					包丁・玉じゃくし等洗にくいものを担当した。しかし、洗い方は雑であった。

イ 5回目の取り組み

5回目の実践では、K男は、材料を渡されたら、自分で切り始め、苦手であった海老の皮むきや、ヘラを使ってひっくり返しも出来た。

Y子やM子についても、材料の適当な大きさ、量が分かり、洗い方もていねいであった。何回も繰り返すことにより、自分なりの見通しを持って最後まで取り組もうとする姿勢や自信がみられた。



d 実践を終えて

単元を展開している中で、Y子やM子は家庭でお好み焼きを作って家族に食べさせている。このことはできることが1つ増えたという自信の表れであり、家族にも食べさせてあげようという気持ちの広がりと捉えることができる。残念ながら、K男は、家庭で作ることはできなかったが、お好み焼きという自信を持った顔で意欲的に活動する姿勢に大きな成果を見る。どの生徒にとっても自分でやり遂げる経験は大切であり、この題材、実践は有効だったと考える。

野外炊飯当日はテーブルのセッティング、テント張り、調理などをどのクラスよりも早くやり、「これは早いで賞」を受賞した。このことも、生徒たちには大きな励みになったと考える。

③ 過去の経験を生かした生徒の思いを大切にした3年生の実践

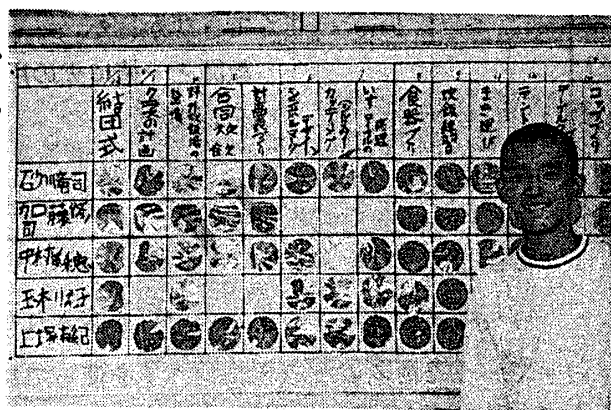
a 取り組みに対する基本的な考え

3年生は、過去2回の野外炊飯の経験があり、それぞれの生徒が見通しを持って取り組めるのではと期待し、経験を生かしながら今年度の取り組みの話し合いを進めた。椅子、テーブル、エプロンは昨年度作ったものを修理して使おう、コップは経験をもとにもう一度竹で作るが今回は彫刻刀で名前や模様を入れてみよう、はしは「お客さまを迎えよう」での竹串作りの経験を生かして自分たちで作ろう、炊飯練習は昨年度と同様、徹底した役割分担を取り入れることにより早く手際の良い作業を目指そう、と次々話し合う中で、生徒たちは目を輝かせ、野外炊飯に対する期待をふくらませていった。また、クラスのシンボルマークを考え、シルクスクリーン印刷の経験を生かして、当日着る揃いのTシャツに印刷しようと決まった。さらに、新たに挑戦する題材として「海」をテーマにしたテーブルクロスや食器やテントを作ることも話し合われ、今までの経験を十分に生かしながら、さらに充実、発展させられる内容となった。

このように、生徒たちの発想や思いを生かし、いつもそこから学習をスタートさせることは、単元全体を通して心がけたことである。また、教材、教具、場の設定、発問等を工夫することにより生徒たちの意欲を高めようと考えた。

b 実践の概要

みんなで話し合った計画に従って、生徒たちは、次々と野外炊飯の準備や作業に取り組んでいった。1時間、2時間単位で次々と作品ができあがっていくという非常にテンポの速い展開となった。生徒たちは学習の度に作品の完成の喜びを味わい、それがまた次の作品作りの意欲へと結びついていった。また、準備や作業が終わる毎に、計画表に、1人ずつ自己評価をしながらシールを貼り、取り組みを反省し確認していった。



野外炊飯の計画表

c テントを作ろうの実践

今年度の準備活動は、コップやはしや食器等、それぞれが自分の物を作っていく場合が多かった中で、ここであげる「テントを作ろう」の実践は、一人ひとりが自分の持ち味を生かし工夫しながらクラス全員が入れる大きな1つのテントを作りあげるという実践である。

生徒達は、過去2回の経験から、「クラスみんなが入れるテントがあったら楽しい」「少しくらい雨が降ってもテントがあれば大丈夫だ」と話し合い、テントづくりを決めた。

学習の導入では、松林にテントをはった様子を模型化し生徒たちの関心を引いた。また、作業時には体育館に場所を移し、広々とした空間の中で3.6m×3.5mという実に大きなビニールを広げ、BGMを聞きながら、海のイメージにそって、生徒たちは生き生きと模様づくりをしていった。

展開のようす（2時間扱い）

学 習 活 動	手 だ て	生 徒 の 様 子
1. 本時の学習内容を 知る。	1. 模型を使って、テント がはられた様子を示し、 意欲を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「わあ、すごい」と言いながら、前に出て、模型を手 取って見る。（U子） ・雨よけにもなることを発表する。（R男）
2. “海”をテーマに どんな模様にするか 話し合う。	2. 体育館に移動し、テン トを広げて、雰囲気づく りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・わかめ、ふぐ、ひとで、いか……と次々に海から連想さ れる物を発表する。くらげがうまく伝わらず、身ぶりを 交えて、懸命に伝える。（S男）
3. テントの模様づく りの作業をする。	3. セロファン、OHP用 シートを自由に使わせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは、何を作ってよいか分からず困っていたが、先生 のヒントでこんぶを次々と作り始める。たくさん作って あちこちはった後、魚を少し作った。（R男） ・岩が作りたくて、まずマジックで大きな岩の形を描き、 その中を時間いっぱいかかって、セロファンを次々はっ てうめていった。（S男） ・とりかかるのに時間がかかり、しばらく考えていたが、 かにやたこを作り始め、たくさんはっていった。（M子） ・最初、いろいろな色のセロファンを重ねて楽しんでた。「熱 帯魚をつくる」と、OHP用シートで実に丁寧に作り始 める。模様も細かい線を入れたので、数個しか作れな かったが、美しい魚ができあがった。（U子）



テントづくりの作業

d 当日のようす

当日は、あいにく雨となり、屋内での炊飯となつた。しかし、体育館の中へテーブル、椅子を並べ、テーブルクロスをかけ、頭上にテントをはる等、準備した物はすべて生かして使い、楽しむことができた。

調理のカレーうどん、サラダづくりも、体育館で切った材料を調理室へ運んで煮るという形で行うことができた。火を燃やして作ることができなかったのは残念だったが、カレールーを入れる頃には、外



食事の場の設定

でするようにクラス全員が集まり、みんなでカレールーを入れ、なかよく作り上げていた。

e 実践を終えて

過去2回の野外炊飯の経験をもとに、生徒たちの思いが十分に生かされた学習となり、得た満足感や達成感も大きなものがあつた。そして、一つ一つの授業の準備を入念にし、学習の場の雰囲気作りも大切にしたりした事は、生徒の意欲をさらに高めることに役立った。さらに、テントづくりのようにクラス全員で協力して1つの物を作りあげる、という題材も取り入れることにより、連帯感も培われたと思う。

(4) 臨海学校における「船を作ろう」の実践

図14 中学部「臨海学校」の単元の流れ（部分）

① 単元・題材について

中学部では毎年臨海学校を実施し、砂浜、海、といった雄大な自然を相手に、水泳、キャンプファイヤー、ダンス等いろいろな活動をする。

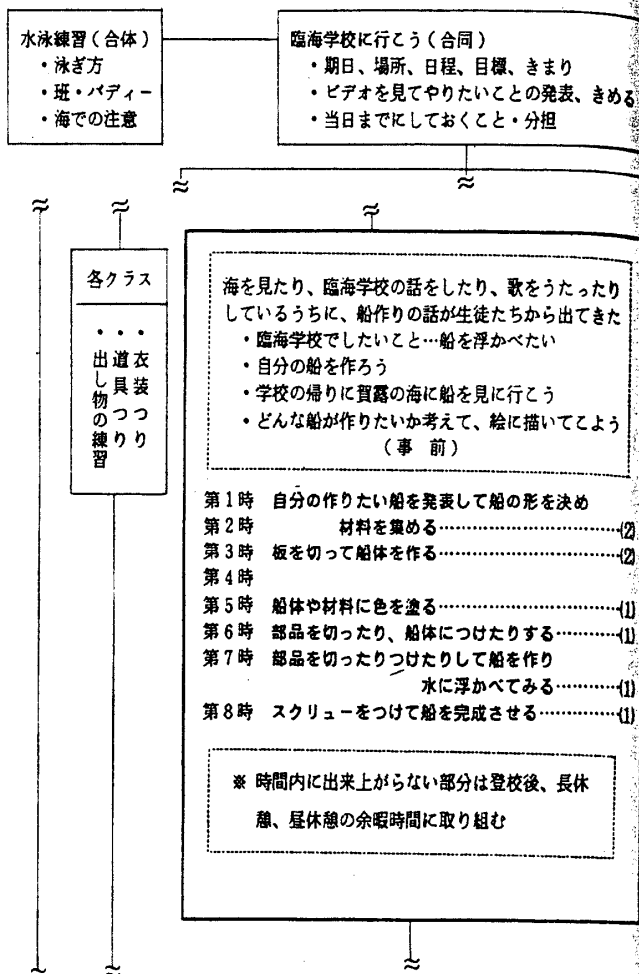
本単元「臨海学校」はその行事を中核にした単元である。前生活単元「野外炊飯」で生徒たちが海に浮かぶ船を見て、臨海学校で「船を作って浮かべたい」と言い出した（思いに駆り立てた）時点から、我々の題材の選定、授業作りは始まった。

作るなら、実際に乗れる船をと考えたが、生徒の安全確保のため、許可は下りなかった。

そこで、一人ひとりが自分の力で作れる世界に類のない自分だけの船を作り浮かべる方向に学習を展開した。「自分だけの船を作ろう」の題材で、生徒たち一人ひとりの思いを生かしながら、楽しんで力いっぱい活動できる授業づくりを目指して展開した例を取り上げる。

② 題材への思い、意図

生徒たちにとってかけがえのない1時間の授業を、本当に「楽しんで力いっぱい」の活動ができ、しかも、どの生徒にとっても、「今大切な力を蓄える」にはどうすれば良いのかを、方法、素材、形・デザイン、手順、場所等についていろいろな立場や考えの選択を迫られながら中学部教師で話し合い、討議をしていった。題材への思いや意図がその討議の中に表れている。



項目	問題内容	話し合いの結果
方法	・共同製作か個人製作か	個人製作は、ダイナミックさや「汗をかく」「力いっぱい」といった雰囲気は出しにくい、集中する、創意工夫するといった「力いっぱい」を大切に、自分の力量で、自分なりの船を完成させ、完成の喜びが持てる個人製作の方法をとる。
素材	・自由に何を使ってもいいのか 教師の方で素材を限定してしまうのか	美術・図工ではなく、木工を中心にした学習にし、どの生徒にも、この題材を通して、木工具の使用を充分にさせたい。また小学部の遊びとの違いを出したい。それには、素材を木に限定し、鋸や金槌を使ってという条件で挑戦させる。
形 デザイン	・全く自由にさせるのか教師の側から何例か見本を提示するのか	真似をさせるものではなく、枠にはめるものでもないけど、発想を広げるという意味で、また、それが動機づけになる場合があるので、何点かの基本型を示す。 但し、装飾部分については、大いに、自分の好きな材料、デザインで楽しませる。

手 順	・見本の船を作る手順を教えるかどうか。	見通しと段取りということを大切にする意味から、出来上がるまでの過程を視覚的に捉えられるようにしておく。それによってすすんで活動が起これたり、指導の手だてに使ったりする。
場 所	・木工室（職業棟）であるのか 教育実習室（中学部棟）であるのか。	寸暇を惜しんで、やりたい時、やれる時にさっと取り掛かれる。何時も身近にあって、進行具合が分かって、友達の様子も見られる。他のクラスとの場所の競合の心配もなく、活動に取り組む姿や、音が聞こえて雰囲気盛り上がるということで近くの教育実習室である。

③ 授業づくりの工夫

「目的のある活動に向かう中で」という授業の位置づけを基本にしながらも、特に次の2点を強調した。

- a 次時導入を前時の終了時にしっかりする
- b その子だけのその子なりの作品を作りきらせる

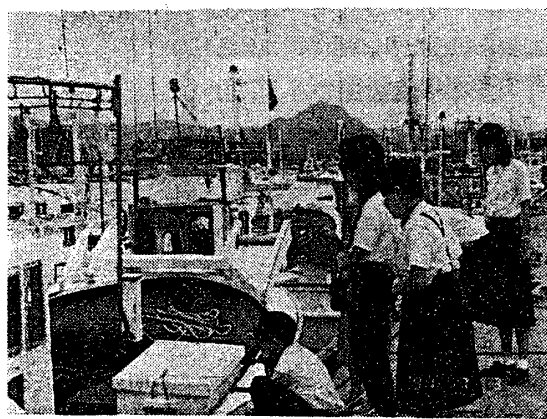
④ 指導計画、展開の様子

事前に、

- ・臨海学校でしたいこと……船を浮かべたい。
- ・自分の船を作ろう。
- ・学校の帰りに賀露の海に船を見に行こう。
- ・どんな船が作りたいか考えて、絵に描いてこよう。

等のあたためをし、「自分だけの船を作ろう」の題材を展開した。

指導計画と展開の様子を表にすると以下のようなになる。



賀露港に船を見にいく

題材の主たる内容	展開の様子・生徒の活動
<p>自分の作りたい船を発表して、船の形を決め、材料を集める。</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・描いた船の発表をする。 ・見本の船を見る。 ・グループに分かれる。 ・材料を確保する。 	<p>自分で工作の本を写してきた生徒、考えた船をそれらしく描いてきた生徒、親子共同作業の生徒といろいろだったが、自分なりに「こんな船」という思いを込めて発表していた。</p> <p>3人の教師が自作の船を見せたところから、生徒たちの目の色が変わり、自分の描いてきた絵と教師の作った船を結びつけてとらえ、こんなのが作りたいという気持ちをはっきり表現でき、船への思いが具体化した。更に、教師の船が水に浮かんだことで、船作りへの思いが高まった。</p>



鋸の使い方を確認

<p>板や柱を切って船体を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋸の使い方 	<p>鋸の使い方がしっかり押さえられた。刃の違い等、言葉で説明できる生徒もあり多少的はずれな発言もあったが、とても活発であった。</p> <p>グループの教師は名人ということで仕事の手順の絵を見ながらよく話が聞けた。約60分、どの生徒も自分の思い思いの材木を切る活動に必死で取り組み、汗をいっぱいかいたが、途中でリタイヤする生徒は一人もいなかった。</p> <p>切った材料を並べて組み立ててみる生徒もいた。</p>
<p>船体や部品に色を塗る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はけの使い方 <p>部品を切ったり、船体につけたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金槌（げんのう）の使い方 ・釘の打ち方 	<p>ペンキを塗るという指示が、材料を更に切ったり、釘打ちをする生徒も出てきて、「切る」「釘を打つ」「塗る」の3作業が交錯し、掌握が困難になり、かなりバラバラした指導になった。</p> <p>教師サイドからは、かなりバラバラした掌握しにくい授業であったが、生徒サイドから考えると目的とする活動に思い思いに楽しんで取り組んでいた。しかし、自分で目的意識の持ちにくい段階の生徒たちが、ぼんやりとしてしまいがちであった。</p> 
<p>部品を切ったりつけたりして船を作り、水に浮かべてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接着剤（ボンド）の使い方 <p>・プールで進水式をする</p> <p>・教師の船が水中モーターで進むのを見る</p>	<p>組立、飾りをつける時間ということで、ボンドの使い方について詳しく説明があったが、実際にはその通りに使う生徒は殆どいなかった。</p> <p>構想図に従って部品を作ったりつけたりしていく生徒、次々と思いが変わり、作業そのものを楽しんでいる生徒等、色々だが、1時間の予定がそれだけでは満足できず、2時間を船作りに当てた。</p>  <p>それぞれが自分の思いの事に黙々と取り組む姿はとても素晴らしい。船体が出来上がり、プールで浮かべた時には、やったという満足な表情を見せ、更に教師の船が、水中モーターで動くのを見て、自分の船も動かしてみたいという意欲が高まった。</p> 
<p>スクリューをつけて、船を完成させる。</p>	<p>水中モーターを取り付けるためのアタッチメントはかなり小さく、細かな作業が必要であったが、自分の船が動くようになるという楽しみから、集中して作業することができた。</p>

以上、小単元「自分だけの船を作ろう」の活動の流れと、生徒の様子を述べた。活動に要した時間は、記してある時間ではとうてい満足できず、7月上旬から中旬にかけては、余暇時間のほとんどがこの船づくりについやされ、登校から下校まで、鋸や金槌やのみの音が中学部棟に響きわたっていた。とにかく、教師側が思っていたよりも何倍も生徒たちはこりにこった船を作り上げていた。

⑤ 実践を終えて

題材「自分の船を作ろう」は、

- ・生徒の方から出てきた
- ・「臨海学校で……」という目的がある
- ・自分のものを作る
- ・することが前の日から分かっている 等

であったため、生徒は大変意欲的に取り組んでいた。

ダイナミックさに欠けるのではないか、課題単元的で、あまり面白くない組み立てではないかと心配したが、

- ・道具を使うという点や取り組みの時間の長さといった点で、かなりからだを動かす、力いっぱいの仕事のできる題材であり、
- ・作業能力や技能に差があってもどんな結果であろうと、完成品として、その子なりに活用できる題材であり、
- ・少し頑張れば、新しい技能が獲得できたり、広がる可能性のある題材であり、
- ・じっくり集中して、自分のペースで抵抗を乗り越えられる題材であったと考える。尚、臨海学校当日は、海という大自然を相手に、力いっぱいからだを動かして活動し、満足した顔が見られた。





水に浮んだ個性豊かな船



船を浮べて満足した姿

(5) 各単元に見られたからだづくりにつながるすばらしい生徒の姿

教師集団の授業づくりへの思い入れを背景に、生徒たちはいろいろな場面ですばらしい姿をたくさん見せてくれた。次の表20はそれを「意欲」「集中」「技能」の観点から一覧表にしたものである。

	意欲・積極性・見通し	やる気・集中力・持続力	道具操作・身のこなし
お客様を迎えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・店の名前を決めたり、マークを考えたりした。(U子) ・店のかんばんを一生懸命かき続けた。(N子) 	<ul style="list-style-type: none"> ・100個のどんぶりを毎日外に運び出し、運び入れた。(M男、U男、T子) ・木の葉がき100枚を作り上げた。(Y子、M子、K男) ・夜遅くまで紙折りを続けた。(T子) 	<ul style="list-style-type: none"> ・うどんの生地を80cmの長さの棒を使って上手に伸ばせだした。(M男) ・型ろくろを使って、どんぶりが上手に作れだした。(U男) ・シルクスクリーンのカッティングが上手になった。(N子、U子) ・電動研磨機が使えだした。(K男) ・糸のこが上手に使えだした。(M子)
学習発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声でせりふを言い、動作も大きく、意欲的だった。(S男) ・家から劇に使うねずみを自分で作ってきた。(U子) ・先生がおられなくても、舞台上で使う家にペンキぬりをしていた。(M子、Y子、R子) ・さっと配置につけた。(R男) 	<ul style="list-style-type: none"> ・だんだんせりふの聲が大きくなり、遊び時間もせりふを言っていた。(M子) ・「きなんせ節」のたいこのリズムを打ち続けた。(A子) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鼓隊のリズムが上手にとれだした。(Y子) ・アコーディオンを歩きながら上手にひいた。(U子)

	意欲・積極性・見通し	やる気・集中力・持続力	道具操作・からだのこなし
野外炊飯	<ul style="list-style-type: none"> ・重い荷物でもどんどんトラックに運ぶことができた。(Y男、S男) ・野外炊飯に持っていきたい物をどんどん発表し、作りたがる。(Y男) ・お好み焼の材料をマーケットに行き揃えてきた。(M子) ・やり方が分かって、自信を持って必要数だけうどんをゆでた。(R男) ・指示だけで、あとは自分のペースで自分で考えながらサラダづくりをやりとげた。(R子) ・友だちに教えられた。(S男) 	<ul style="list-style-type: none"> ・かまどを自分なりに工夫して組み立てようとあれこれ工夫をした。(T男) ・大きなテントに大きなひまわりの絵を約2時間かき続けた。(A子) ・自分でミシンを動かそうとしたり、ぬってみようとした。(K男) ・和紙作りでミキサー操作を一人でした。(K男) ・お好み焼ができるまで集中してやりとげた。(Y子) ・黙々とやりとげる。(R子) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンが上手に使えだした。(A子) ・飯ごうでご飯が炊けだした。(U男) ・お好み焼がひっくり返せた。(K男) ・一人でお好み焼が作れだした。(M子) 
臨海学校	<ul style="list-style-type: none"> ・休けい時間も船の材料を切ったり、ペンキをぬったりしていた。(R男) ・出し物は「平成音頭」にしたいと言い、ふりつけをする。(U子) ・出し物練習にはりきって取り組む。(H子) ・キャンプファイヤーのトーチを作る。(Y男) 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅30cm、厚さ8cmの材料をのこぎりで切ったり、中をのみでこつこつくりぬいていった。(S男) ・休んだり、遅れたりする事が少なく学習に集中できた。(R子) ・入所式で、大きい声で堂々とあいさつができた。(M子) ・休けい時間も止むことなく、のこぎりを使っていた。(T男) ・息つぎに挑戦。(M子) 	<ul style="list-style-type: none"> ・シルクスクリーンのカッティングで1~2mmの線を彫る。(N子) ・洗濯機で水着の洗濯ができるようになった。(Y子) ・のこぎりの使い方が上手になってきた。(Y男、T男、A子) ・のこ、きり、かなづちの操作が上手にできだした。(U男) ・お汁をこぼさないで上手によそうことができた。(A子、U子) ・腰をしっかり使ってすもうをとり、女子組で優勝した。(A子)
運動会	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から副キャプテンに立候補し旗手をつとめた。(U男) ・器具係の仕事を言われなくてもどんどん取り組んだ。(Y男、T男) ・応援団長として大きな声で応援の練習に取り組んだ。(S男) ・すわり込んだり、とまったりしないで、自分でゴールまで走ることができだした。(K男) ・ドラマーチをきれいに仕上げようと、毎日練習を続けた。(中3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・役員記事20枚を黙々と書き続け、きちんと整えて準備をした。(U男、A子) ・30個のかざりを40分かかって、ひもに結びつけた。(Y子) ・ひも結びでひもの先をしっかり見ることができだした。(K男) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひも結びができだした。(Y子) ・ちょう結びができだした。(Y男) ・両足とびができだした。(H子) ・アイロンが上手にかけられ、しまつもきちんとできた。(A子) ・一輪車を押して、ふらつかないで走れた。(H子) ・スピードをつけて走れだした。(K男) ・胸をはって、手をふって走れだした。(A子)

以上、各単元に見られたすばらしい姿の一例を述べた。この姿は、めざすからだを意識して直接働きかけた結果のものもあり、必ずしも定着した力とは言えない部分があったり、変容のとらえ方が単元の始めと終わり、前単位との比較、昨年の同一単元との比較等、一定でなかったりする。また、「何日間も余暇時間を船作りに取り組んでいた」S男と「1時間かけて小さなまきを1本切り落した」K男の姿の様に、個人によってもその観点に大きな違いがあったりする。その子なりに現時点を、前よりも力いっぱい取り組んでいる姿、定着した力へつながっていくある段階でのすばらしい姿として、どの姿も大切にしていきたい。